

市町村制度融資担当者へ聞く

中小企業の未来をひらく

神流町
KANNA TOWN

制度融資

地方創生の流れの中で、地域経済において市町村が果たす役割が、これまで以上に大きくなってきています。本連載では、群馬県内各市町村の、制度融資担当者に登場していただき、制度融資を中心に、中小企業施策全般について、考え方や方向性、具体的な施策等をお伺いします。今回は、神流町産業建設課を訪れ、大熊主事にお話を聞いてきました。



GUEST

大熊悟史 様

産業建設課 主事



産業建設課の皆さま

左から、高橋課長、大熊主事、黒澤課長補佐

Q. 町の特色と中小企業施策の基本的なコンセプト等を教えてください。

神流町は平成15年4月、万場町と中里村の合併により誕生しました。群馬県の南西部に位置し、関東一の水質を誇る清流「神流川」と自然豊かな西上州の山々に囲まれた「水」と「緑」に恵まれた町です。

本町は、旧万場町の時代から、「鯉のぼり」をイベント化した元祖として全国でも知られており、毎年ゴールデンウイークのイベント期間中には約800匹の鯉のぼりが神流川の青空を雄大に泳ぎます。また、旧中里村で日本初の恐竜の足跡化石が発見されたことから、「恐竜王国」を宣言しております。関東唯一の恐竜専門の観光施設である「神流町恐竜センター」では、世界各国で発掘された多数の恐竜化石の展示を行い、館内のレストランでは「プテラノ井」や「イグアノ井」といったユニークなメニューも取り揃えておりますので、近隣へお越しの際はぜひお立ち寄りください。

本町の産業は農林業が主幹産業として古くから盛んに営まれてきましたが、地形的な制限による経営規模の問題や、少子高齢化による後継者や従事者不足により企業体の減少が深刻な問題となっております。また、当地域において極めて重要である商店も減少傾向にあり、将来的に高齢者を中心として生活用品の購入などに困窮する事態が出てしまうことが懸念されております。

このことから、今後は既存の商店や企業の経営強化への取り組み支援と、自然に配慮し、環境に優しく、地域の支援を融合できる企業の誘致を推進し、若者の定着推進や、就労機会の創出を目指します。

観光事業につきましても、前述の歴史あるイベントや施設の他に、近年では、準備や運営を町民の手作りで行い、町民の温かいおもてなしの心で迎えるトレイルラン大会「神流マウンテンラン&ウォーク」の開催や、真夏の神流川の清流をまるで海水浴場のように開放する「神流の涼」など、恵まれた自然を活かした地方創生事業や地域交流事業を積極的に取り入れております。

Q. 中小企業向け制度融資メニューをお教えてください。

本町では、県と協調で行っている「小口資金」があります。町内の中小企業者を対象に、設備投資や運転資金が必要となった際に利用することができ、保証料の一部を町が補助する便利な融資で、利子補給も行っております。

主な制度融資の保証実績 (単位:件、千円)

制度名	年度	保証承諾		保証債務残高	
		件数	金額	件数	金額
小口	29年 10月末	1	2,000	2	3,110

Q. 制度融資以外の、中小企業や創業者向けの施策を教えてください。

本町では産業振興施策として、産業振興支援補助（町の単体事業）を平成28年度より行っております。この支援補助は、町の産業振興及び地域活性化を図るため、6次産業化等新たな取り組みにより地域資源を活かした地域性の高い新商品の開発、新産業創出等を目的とした事業に対し、補助対象経費の1/2（100万円上限）を補助するものです。平成29年10月時点では、商店や飲食店を中心に4事業者が当事業を活用しており、今後の地域産業振興、活性化が期待されております。

Q. 今後の中小企業施策や制度融資に対する思いを教えてください。

本町は、合併時に3,000人あまりだった人口が現在では2,000人を割り込んでおり、高齢者比率も58%を超えている状況で、少子高齢化による中小企業及び個人事業者の減少を深刻な課題であると受け止めております。

今後、このような大きな課題に対応していくためには、本町だけの力では限界があると感じております。特に観光事業につきましても、本町のみでなく西上州全域の魅力を発信していけるよう、近隣の市町村の取り組みとの相乗効果が期待できるアイデアを検討していきたいと思っております。また、町内の既存企業や個人事業者に対しては、各種融資制度の活用を推進するとともに、信用保証協会をはじめ、商工会、金融機関などの関係機関と連携し、経営基盤の強化を図っていきたいと考えております。